

a 学校教育目標	豊かな心と表現力を養い、仲間と共に社会貢献できる、たくましい生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域に「元気」と「感謝」を届ける誇りある学校
----------	-------------------------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方策	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	思考力・判断力・表現力の育成	○「目指す資質・能力」や「具体的な姿」を常に意識した授業改善 ○ICT機器の積極的な活用、教科ごとの研究授業 ・考えを可視化したり、共有化する等、授業での活用 ・学活やアンケート等、校務に関わる場面での活用 ○「めあて」「まとめ」「振り返り」の実践	生徒・教職員アンケートの肯定的回答率 (「ICT活用」に関する設問)	80%	91%	114%	A	・「学校での活動の中でクロームブックなどのパソコンやタブレットを使うことは楽しい」肯定的評価が94%。 ・「自分の考えをまとめたり、分からないことを調べたりするときに、パソコンやタブレットを使っている」肯定的評価が88%。 →授業内での積極的な使用の効果が生徒の学習意欲の向上につながっている。 ・家庭学習時間30分以上は82%。 →第GOノートを全学年で取り組んでいる効果が出ている。	・引き続き、授業におけるクロームブックの積極的な活用と家庭学習でのドリル教材の取組で基礎学力の定着を図る。 ・第GOノートを活用し、家庭学習の量(時間の増)・質の充実を目指す。 ・30分未満の生徒への取組強化。					
			生徒・教職員アンケートの肯定的回答率 (「家庭学習」に関する設問)	80%	82%	103%	A							
	主体的な学びを促す授業づくり	基礎学力の定着	○「学習分析事業」等による定着状況の把握、学力向上の検討 ○家庭学習の量(時間)・質の充実とそれを活かした授業づくり ○実態に応じた「第GOノート」の活用と点検 ○学習規律の一層の確立	学力調査・実力テストの正答率	全国平均以上	全国学力国語		B	・全国学力・学習状況調査 国語67(全国平均64.6) 数学53(全国平均57.3) →数学の「具体的な場面での見方や考え方の活用に課題がある」。 ・学力定着分析(NRT)偏差値平均 1年生全49.5 国50.2 社49.5 数48.8 理50.7 英48.8 2年生全49.3 国48 社50.4 数47.6 理50.3 英50.2 3年生全49.2 国50.8 社49.5 数48.4 理49.9 英47.2 各教科の領域別で全国比90%未満のもの ・国語 読むこと(1年生86%, 2年生89%) ・数学 データの活用(1年生88%) 数と式(3年生87%) ・英語 話すこと(1年生88%, 3年生89%) →全体の偏差値平均は全国平均に僅差で及ばないが、各教科領域別で大きな差が生じている	・学力分析事業改善計画の共有化、着実な実施と検証・改善。(PDCAサイクル) ・授業や家庭学習の取組事例を全教職員で共有し、効果的な取組は取り入れる。 ・授業ごとに小テスト等を行い(フォームの活用)、基礎学力の定着を図る。 ・定期考査や実力テストの結果分析による課題の把握・明確化、それに対する事後指導の徹底・評価の還元を行う。				
たくましい心身の育成	自己指導能力の育成 (自ら考えより良く判断し行動する力)	生徒指導・教育相談活動の充実	生徒アンケートにおける「主体的な地域活動への参加」についての肯定的回答率	90%	76%	84%	B	・「ボランティア活動等を通して、地域貢献を意識している」肯定的評価が76%。 ・QUの結果をもとに、SCからコンサルテーションを受け、より組織的で積極的な生徒指導につなげた。	・生徒会役員を中心に生徒自らが生徒会活動を盛り上げることができるよう学活等で指導していく。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、学校全体での取組は難しいが、委員会活動などでボランティア活動を進めていく。					
	生徒会活動の充実	○生徒の主体的な取組や頑張りへの肯定的評価 ○集会活動の定例開催と内容の充実 ○地域への貢献活動の促進	生徒アンケートにおける「学校生活への満足度」についての肯定的評価	90%	90%	100%	A	・「学校へ行くのは楽しい」というアンケートの肯定的評価が90%。 ・生徒アンケートから早期発見・早期解決で取り組むことができ、今年度いじめ件数0件。 ・不登校傾向生徒の個別の指導計画の作成100%。	・QUの結果をもとに、SCからコンサルテーションを受け、より組織的で積極的な生徒指導につなげる。 ・家庭との密な連携、関係機関との連携等、より組織的な対応を推進していく。					
働き方改革の推進	子供と向き合う時間の確保	効率的で組織的な校務運営・業務改善	見直し、スリム化、業務改善が実行できた事項	学期に3つ以上	4つ	133%	A	○クロームブックを使用して服務研修を行い、全員が意見をジャムボードに載せるなど、意見交換の活性化を図った。 ○次週の時間割をHPIにアップし、予定の見える化をした。 ○運動会を半日開催とし、内容を精選しながらも充実を図った。 ○すぐーの活用を積極的に行い、電話対応の業務負担軽減ができた。	○ICTを活用した授業改善に取り組む。具体的には、校内授業研ではICT活用の活動場面を取り入れた授業を提案する。 ○HPとすぐーを活用して、情報発信を保護者や地域に行っていく。 ○学年会や部会等は原則水曜日に集中させ、それ以外は生徒対応、部活および教材研究に専念する時間を確保していく。					
	長時間勤務の縮減	○上限の目安時間を超えない時間管理の徹底 ○働く者の意識醸成(ワークライフバランス) ○新日課表による働き方改革、定時退校日の厳守	時間外在校時間月45時間以内の職員の割合	90%	87%	97%	B	時間外勤務45時間以上超えた教職員割合 4月30%(7人)、5月13%(3人)、6月22%(5人)、7月13%(3人)、8月0%(0人)、9月0%(0人)。 ○定時退校日が浸透し、早く帰宅する意識が高まった。 ○部活動休止の影響もあるが、時間外勤務の割合が減ってきた。 ○新日課により放課後の業務にゆとりができた	○仕事の優先順位などをつけながら業務を遂行する風土を醸成していく。 ○引き続き、定時退校日の習慣化と、時間外勤務の上限を超えないよう取組を進める。 ○それぞれのライフワークバランスに沿った年次有給休暇の取得を推進をする。(例えば平日の時間単位取得や休業中の連続取得など)					

【j : 自己評価 評価】  
A : 100≦(目標達成) C : 60≦(もう少し) < 80  
B : 80≦(ほぼ達成) < 100 D : (できていない) < 60

【l : 学校関係者評価 評価】  
イ : 自己評価は適正である。  
ロ : 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。